

講義名	財務戦略論 A / 財務戦略論			授業形態	
担当教員	小笠原 宏	開講期・曜日・時間	前期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	ACC262

主題と概要

企業経営における財務管理の重要性を理解し、その基礎理論の理解と習得をめざす。財務戦略構築上、考察すべき重要な2つの側面は、資本の調達と運用である。その両面でACCランスのとれた効率的なマネジメントが重要である。与えられた情報を最大限に利用し、定量的な客観性と論理的整合性を重視した財務アプローチをもって複数投資案件の取捨選択や、資金調達を考えた総合的な財務戦略の立案、遂行を行い、同時にその結果を合理的に評価分析する手法を学ぶ。そして実践力の向上までも目指す。本講座で取り上げるアプローチは財務以外の分析でも広く応用が可能である。講義内容は、いわば米田経営大学院の必修科目の内容をベースに、受講対象を学部生向けに集約、調整した内容を考えている。財務理論の実践的応用として事業経営全般における「戦略」的発想部分を数字に落とし込んで講義を深めるための基本的な考え方を習得する。

到達目標

基本的な経営管理能力のうち、戦略構築能力、分析能力の醸成。企業価値、プロジェクト価値など算定能力が身につく、更に関連知識が習得できる。多様な角度からのものを分析し考察する力が増える。経営者、マネージャーの視点からの分析アプローチが身につく。

提出課題

授業進度、理解度に応じて講義内で実施の可能性は(1回程度)。講義内で取り上げ解説した事例や事項に関して、小レポートのようなものを提示することはあり得る(有志のみの提出とし、それは加点要素として評価に加える。授業参加の程度の目安として考えている。)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

講義内で解説・講評を行う予定だが、必要に応じてブログを通して解説・講評など提出の場合もある。毎回講義終了(出席後裏面)、ブログなるを通じても質問は受け付ける。メール(授業用別設定メールアドレス)にて出席申告、質疑コメントなど常時受付予定。全体にとって有益な質問やコメントは、講義中に取り上げる場合もある。ブログ通じた資料配付なども必要に応じて行う。(ブログ、メールは、本学ポータルの外に別途設定して運用)

評価の基準

基本的に15回講義のうち、全回対面講義の予定。講義録を授業ログとして復習用にオンデマンド教材化と公開を予定している。講義出席が基本。授業貢献度として講義後のメールでの質疑・コメント提示などを加点評価するつもり。筆記試験の場合、採点は減点方式でなく、加点方式を原則としている。時限前、2020年度同様、最終レポートを集合筆記試験代わりに課す予定だが、状況におおして試験実施になる可能性を排除しない。最終試験実施の場合は評価配分の【目安】として試験得点50%+業参加度30%程度+提出課題(レポート)20%提出課題がない場合は、試験70%+授業貢献度30% 様々な形での積極的な参加(双方向の)が加点評価に繋がるとを認識して欲しい。

履修にあたっての注意・助言他

基本的に講義形式。取り上げる主要項目は別項のようなものを考えており、履修者のレベル、理解度に応じ調整する。財務的な定量分析アプローチで現象問題どう議論していくかという説明をめざしている。通り一遍の手先の講義でなく、その時点でのポットインシュートにも考えながら、最終的応用の視点からの考察を加えたい。経営財務に関する初学向け基礎文庫を任意で1冊通読することを推奨。本に書いてあることを改めて繰り返し説明するような授業ではない。板書・ファイル、音声ファイルをブログを通して公開してきた。更にビデオ録画をオンデマンド教材として限定公開の予定(準備企画中)。それら元を復習、試験対策を推奨。個別面談指導など要望があれば対応する。

教科書

・特に指定しない。

参考図書

その他

「証券化の基本と仕組みがよくわかる本」小笠原 宏著(秀和システム2004) 「ビジネス・ゼミナール経営財務入門」井出正介・高橋文郎著(日本経済新聞社2004) 「コーポレートファイナンス」(第8版)ペロ・たけし・フリーリス・マイヤース著 藤井真理子・訳(経世堂出版2006) 「基礎からのコーポレートファイナンス」(第2版)吉川浩一他著(中央経済社2001) 「すらすら読めて読ませられるコーポレートファイナンス」向田文彦(創成社2004) 「基礎からのコーポレートファイナンス」(第2版)吉川浩一他著(中央経済社2001) DCF分析と価値評価」(第2版)土井秀生著(東洋経済新報社2003)など。プリント資料などは、随意作成し、講義内及びブログや講義内連絡添付にて配布予定。

授業計画

1. 財務諸表の基本(構造仕組み) 財務と会計の違い
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
2. 財務諸表の基本(財務データの見方)
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
3. 財務諸表の応用
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
4. 財務比率分析の基本と応用
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
5. キャッシュ・フロー計算書の基本と見方
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
6. 運転資本の考え方。
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
7. 運転資本管理とCFM
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
8. キャッシュ・コンバージョン・サイクル とFCFの考え方
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
9. CFMとVBMの考え方(実践的な投入方) 価値創造の経営
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
10. 割引現在価値法の考え方
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
11. 割引現在価値法の実践的手法
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
12. 正味現在価値(NPV)という尺度
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
13. 継続事業体と収益分析およびCFI
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
14. 投資選択問題(資本予算問題)の捉え方(PBP, NPV, IRR尺度)
予習: シラバスならびにキャンパスクロスに事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること(120分)
復習: 講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
15. 財務戦略としてのCFMの重要性

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

総合的に経営者、マネージャー等チーム、組織のリーダーとしてのものであり、判断のための手法を学び身につける。当事者意識及びその視点からの経営理論および分析手法、戦略立案を実践できるようになる。評論家的な見方、考え方にとまらぬ。実践において役立つ思考プロセスが身につく。会計コースに関しては、簿記、会計の基礎知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフローに関する情報を評価、分析することができる。同時に、企業の社会的役割を理解したうえで、修得した専門知識をもとに企業が直面する問題や企業への強みを発見し、経営戦略の構築に貢献することができる。起業・事業承継コースとの関連では「新事業を創出するための基礎となる、マーケティング理論や経営理論の応用面を展開し、「起業や事業承継(第二創業)、社内ベンチャーなどについての夢やビジョンを、具体的な事業計画として立案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ネット上のストレージ(格納)スペースの活用、ブログによる授業内容、ログの発信(復習のため)を実施。毎回出席票の回収集計により、裏面を意見交換の場として活用。音声ログ、板書ログなど、講義録を事後的に公開することにより、復習の効率上がる。その分毎回講義に集中することが求められる。メールやオンライン面談などを活用した双方向のやりとりや意見交換を実施している。

実務経験の有無及び活用

外国銀行及びシンクタンク勤務経験があり、実業界、実社会での要請や必要要件の理解認識を持っている。ほんとうの「実学」教育訓練の実践を目指している。

備考
